

まほらいな市民大学の様子

令和7年4月8日（火）

『 伊那谷の魅力を語る

～「伊那谷 徒然散歩」より～ 』

講師 画家 第一美術協会会員 吉田 勝美 氏



吉田 勝美さんは絵画の制作が大好きで、徒然なるままに上伊那各地を訪れては絵を描いています。山の風景や草花、神社仏閣、人々の祭りなど、その背景にある歴史由来やかかわっている人々の思いなども絵とともに画集にまとめています。

吉田さんの幼少の頃は家で山羊を飼っていてお乳を飲んでいたこと。野山に出かけては遊び、自然を肌で感じて育ったことが今の自分の素になっているという話がありました。澄心寺での「花祭りの日」のこと。父母と一緒に行った「赤そばの里」の思い出。「もみじ湖」を造るため湖に沈んだ37戸と箕輪町へ寄贈したもみじの苗木の話。西天水路と水路橋、円筒分水槽の話。天竜川、三峰川、霞堤といった水の話。神社とお祭りを守り続けている人の話など、色彩豊かで繊細なすばらしい絵画とともにそれにまつわる話をじっくりと話されました。

学生からは「伊那谷の魅力を絵画を通して紹介してくださり、とても面白かったです。伊那谷徒然さんぽに描かれている場所に足を運びたいくなりました。」「いつも行っている所、通っている所なのに、吉田先生に切り取られた絵は新鮮で、全く異なる印象でした。すばらしい絵です。もう一度じっくりとその場所を見てみたいと思いました。」「昔なつかしいお話が出てきて、子どもの頃から好奇心と健脚が感性を磨き、継続する力を育んだと感じました。自然体で吉田先生の絵を鑑賞することが出来ました。」といった感想がありました。